

「わたしにあるものをあげよう」

マタイによる福音書 11章 28節～30節
使徒行伝 3章 1節～10節

説 教 久保田拓志伝道師

「美しの門」とは神殿の東側にある門で、足の不自由な男性がここに運ばれて置かれたのは、神殿の中でも一番、人の往来が激しく、より多くの人々から施しをもらえることが期待できたからでした。

しかし、他人の手によって運ばれ、施しを受けるだけの生活は、それ自体が明日の希望がない、不安だらけの生活でした。一番つらかったことは、これが現実なのだと思い定めて、彼自身が自分の人生をあきらめてしまっていたことでした。もはや、自分の力ではどうしようもない。自分の人生を変えることはできない。それが、40年以上生きてきたこの男性の結論でした。

そこにペテロとヨハネが登場しました。二人とも、十二使徒と呼ばれたイエス様の直弟子でした。彼らは生まれたばかりのキリスト教会のリーダーでもありました。ペテロとヨハネに、この男性は、いつもの通り、施しを求めました。しかし、ペテロとヨハネは、そこを通りすぎず、この男性をじっと見つめました。そして、「わたしたちを見なさい」と、この男に声をかけました。二人は、この男性の前に立ち止まり、立ったままではなく、腰を落とし、この男性と同じ目線で、正面からこの男性の瞳をじっと見つめたのではないかと、私は想像しています。これから、大事なことをあなたに伝える、だから、しっかりとわたしたちを見なさいと、ペテロは、男性に声をかけました。そして、こう語り掛けたのでした。「金銀はわたしにはない。しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい」

ペテロもまた、イエス様が十字架にかけられて殺される直前、イエス様にじっと見つめられるという経験をしました。それは、自分はその人のことは知らない、その人と自分は無関係だと3回もイエス様のことを裏切った直後の出来事でした。しかし、裏切ったペテロを赦し、その眼差しの中に置いてくださったイエス様の愛に触れてペテロは泣きました。

ペテロは、よみがえりのイエス様によって、その手をとるようにして立ち上がらされ、失意のどん底から立ち直った人間でした。ペテロがいう「わたしにあるものをあげよう」というのは、私がイエス様からしていただいたことをあなたにもしようということ。ペテロに右手をとられたこの足の不自由な男性の全身に力がみなぎりました。腰をおとしていたペテロは、右手をとって、その人と一緒に立ち上がりました。上から見下ろす視線で、ただ立ち上がれと命令したのではなく、共にイエスキリストの命に生かされた者として、手を取りあって二人は

立ち上がりました。

生まれて初めて、自分の足で立ち上がったこの男性は躍り上がって、ペテロとヨハネと共に、宮の境内にはいって、歩き回って神様を賛美しました。それは、自分もまた、神様の前に居場所が与えられているという喜びの表現でした。

居場所には、もう一つ大切な意味があります。それは、その人にしかできない役割が与えられているということです。目に見える働きもあるでしょう。しかし、もっと大事な働きは目には見えません。その働きとは、そのままの姿で、神様から愛されて、そこに存在しているという役割です。この男性は大勢の人々の前で自分の足で歩き回り、讃美の歌声をあげ、命の喜びを表現するという役割を与えられました。

マタイによる福音書11章28節から30節は、人生の困難に打ちひしがれ、疲れた人々を招き癒して下さるためにイエス様が語ってくださった招きの言葉です。くびきとは、二頭の牛をならべて、その首に負わせる横木のことで、牛を同じ方向に進ませるための木製の器具のことです。頭をより下にさげたほうに、くびきの重量がかかります。イエス様は自分のことを柔和でへりくだったものと表現しました。それは、くびきの重量をあなたに一方的にかけるようなことはしない、なぜなら私は、神様の前に誰よりも頭をひくくたれている者だから、あなたのくびきの重さは、この私が背負う、というイエス・キリストの招きの言葉です。

あなたがたを休ませてあげようと、イエス様は言われました。イエス様が与えてくださる休みとは、私たちに居場所を用意して下さるという休みのことです。そして、私に学びなさいとイエス様は言われました。イエス様と一緒に、くびきにつながれて、イエス様のやり方を、見様見まねで、やってみる。最初は、隣にいるイエス様との呼吸があわずに、うまく荷物をひっぱれないかもしれません。でも、時間をかけて、師匠のやり方を、目の前で見て、そのやり方を学んでいくとき、荷物を軽くひくことができる日が必ず来るはず。私たちは、もはや居場所を求めてさまよう必要もありません。イエス様が、私たちの罪の真ん中に、私たちの一番恥ずかしい所、一番弱い所に、その居場所を定めくださっているからです。

「ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。」この呼びかけの中に、私たちの希望があります。

(記 久保田拓志)